

動物の診察室から

○ 79 ○

6月のある木曜日、1頭のキャバリア犬が前日から全く立てなくなつて来院しました。その子の名前は「ゆうき」君。6歳になる男の子です。ゆうき君は前日の朝、急に前足がふらつき、夕方からは後ろ足も麻痺してきました。そして、診察時には首も持ち上げることができなくなっていたのです。



検診に来たゆうき君

麻痺の原因究明へ上京

検査の限界

急に症状が出ていることから、考えられる病気は頸部の椎間板ヘルニアか脊髄梗塞です。その日はもう夕方でしたので翌日に、頭と首の造影CT検査を行いました。その結果は、頸部ヘルニアはあるのですが、脊髄への圧迫は軽度です。その他に脊髄空洞症もありました。頸部ヘルニアの場合

犬は、症状が出なくても70%の犬が「キアリ奇形」があるといわれています。キアリ奇形は、頭蓋骨の後ろが少し脳を圧迫している奇形です。そのために脊髄の内部に空洞ができる脊髄空洞症にもなってしまうのです。私の病院での検査はここまでが限界です。キアリ奇形および脊髄空洞症の診断はMRIの検査が必要で、そのためにはMRI検査ができる施設のある東京まで行かなければなりません。

夕方お父さまに、そのことを説明しましたが、自分でゆうき君を東京へ連れて行くことはとても無理なことでした。しかし、ゆうき君は立てなくなっているために時間的な余裕がありません。そこで、日曜日に埼玉県の犬宮で開かれる外科学会に参加する予定の私に、ゆうき君を東京に連れて行くことになりました。

無理なことでした。しかし、ゆうき君は立てなくなっているために時間的な余裕がありません。そこで、日曜日に埼玉県の犬宮で開かれる外科学会に参加する予定の私に、ゆうき君を東京に連れて行くことになりました。

原因は首のヘルニアだろうとの診断でした。その夜、ゆうき君を新潟へ連れて帰り、翌日手術を行ったのです。ゆうき君は順調に回復をしていき、1週間後大好きなお父さまのいるお家へ帰ってきました。

少し回り道をしましたが、ゆうき君、歩けるようになってよかったですね！

訂正

5月26日付以降の「動物の診察室から」の掲載回数に誤りがありました。5月26日付が76回、6月9日付が77回、同23日付が78回で

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝第2・4木曜掲載＝